Kyushu Bunka Gakuen
80th Anniversary
since 1945

九州文化学園創立八十周年記念
「絆の茶会」に寄せて

九州文化学園は創立以来八十年にわたる歴史の中で、学祖安部芳雄の志により、平戸に淵源を有する鎮信流の茶道を教育の根幹に据えてきました。

茶道は五感を研ぎ澄ます総合芸術である一方、何よりも人と人との交わりを重視するものです。茶道を大成した千利休はそれを「直心の交わり」と呼びました。そこでは主人と客、客と客との間の心の通い合い、おもてなしの精神が尊ばれます。

平戸松浦藩の第二十九世藩主松浦鎮信を流祖とする武家茶道である鎮信流ではそれに加えて、「強くして美しき」ことを目指し、茶を通した心の修練を理念としています。まさに鎮信流のそうした理念こそ、本学園が建学の精神の基盤としているところであります。すべての学校種の園児、児童、生徒、学生、さらには教職員が共に鎮信流茶道を学び合う師弟同行を通して、豊かな交わりを目指してきました。

そしてこのような交わりは、世代や性別、国籍などの多様性を超えた絆へとつながるものです。相手を敬い合う茶道の交わりは、現代のダイバーシティ（多様性）社会で求められる人と人との絆を実現し得る場となり得るでしょう。幼児教育、初等・中等教育、そして高等教育、職業教育に関わる総合学園として、九州文化学園は今後も茶道による豊かな交わりと強い絆を創出していくことを目指していきます。

このような思いから、九州文化学園創立八十周年を記念して、ここに「絆の茶会」を催させていただきます。本学園の茶道を通した教育の成果を、ご覧いただければ幸いです。

令和七（二〇二五）年十月吉日

九州文化学園理事長　安部直樹